

## 令和8年度 第1回学校評価委員会報告

日 時 令和8年6月4日（木）午後5時

場 所 群馬県歯科医師会館 2階 常務会室

出席者 村山利之委員長、井田順子委員、高瀬裕志委員、森島愛一郎委員、高橋智幸委員、斉藤崇委員、佐野公永委員、高橋勉委員

### 1 開 会

### 2 挨拶

村山委員長から令和8年度第1回学校評価委員会の開催について、挨拶が行われた。

### 3 報 告

高橋智幸委員から令和8年度学校評価自己評価集計結果から、今年度の重点目標に掲げる「実習中の医療事故」「国家試験合格率」「県内就職率」「定員数の確保」「教員の指導力の向上」といった評価結果について、資料に基づき報告をした。

令和7年度において「実習中の医療事故」「国家試験合格率」「県内就職率」「教員の指導力の向上」は適切との意見が多かったが、「定員数の確保」は目標に達せず、やや不適切であった旨報告がされた。

令和8年3月に行われた第35回歯科衛生士国家試験において、本学院の合格率は94.7%（38名中36名が合格）で全国平均を上回る合格率であった。既卒者においても5名中5名が合格をした。

令和8年度の入学生数については、定員50名中28名が入学し、定員割れが続く結果となった。令和7年度より専従職員を配置し、県内の高校だけではなく栃木県、埼玉県、新潟県、長野県といった本県と隣接している高校訪問や進路ガイダンスに積極的に参加して生徒募集を実施したが成果には繋がらなかった。令和8年度も引き続き実施する旨報告された。

また、令和8年度よりAO入試制度を導入して単に学力だけではなく受験生の入学意欲や歯科衛生士を目指す強い意志、目標実現のために努力し、向上心を持って取り組む姿勢などを総合的に評価して定員を満たせるよう取り組む旨報告された。県内歯科診療所における歯科衛生士不足や本学院の財政基盤の安定の

ためにも学生数の確保に努めていくことが報告された。

#### 4 協 議

以上の報告事項を踏まえ協議の結果、歯科衛生士不足や財政基盤の安定、学校の運営面や体制づくり等は、学生の質を高め、国家試験合格率100%を目指し、学生を確保することが重要な課題である。合格率につきましては前年度より上昇したが全員合格に向け教職員が一丸となり指導して必要がある旨、発言があった。

学生確保の手段として、オープンキャンパスの積極的な開催、学校訪問等が本学院への入学に結びついているので県内をはじめ隣接県で展開していくよう発言があった。

令和8年度より新たにA0入試制度を導入されるので、志望理由書や活動実績、面接などを基に、受験生のポテンシャルや学習意欲を重視されることから、学力試験が苦手な生徒や、特定の分野で卓越した才能を持つ生徒を本学院に積極的に受け入れをしていく発言があった。

学生に対して最新鋭の医療機器等で学ぶことにより、実践力をアップさせ、最新のスキルを身につけられるよう学校内の環境を整備して頂きたい旨、発言があった。

今後も学生に対して学修支援だけに限らず、学校生活への適応など幅広い相談に応じるよう努めて頂きたい旨、発言があった。

魅力ある学校づくりを実践していくため学ぶ意欲と歯科衛生士として資格取得ができるようカリキュラムを見直し、時代にあった歯科衛生士を育成するよう検討していく発言があった。

学院の運営に関して定員割れが続いている。収支差額がマイナスであることから教職員配置や設備更新が難しくなり、教育の質の低下が起こることから学生の確保と学費の値上げについて同時に検討していく旨、発言があった。